



新たな世界の枠組みはどこへ

ロシアのプーチン大統領は6月19～20日にベトナムを公式訪問した。2017年以来、約7年ぶり5度目。ベトナム・ロシア友好関係基本条約締結30周年に合わせてベトナムのグエン共産党書記長が招待したという。

両国は同日、2国間の石油・ガス事業拡大、原子力分野、高等教育や学術交流などの協力に関する11件の覚書に署名し、共同声明を発表。ファム・ミン・チン首相はエネルギー分野が経済連携の柱と述べ、ロシアのガス大手ガスプロムと石油大手ザルベジネフチのベトナムでの事業拡大に有利な条件を整備する準備があると発言した。

両国の貿易活動は活発化しており、2024年1～5月の両国間の貿易額は前年同期比51.4%増の19億6,000万ドルに達した。ベトナムの対ロシア輸出では、食品や衣類などが増加し、輸入では、鉱石や石炭などが増加している。

ベトナムは特定の国に依存せず、各国と柔軟に付き合う全方位外交を掲げている。この外交方針は、経済成長をもたらしたが、西側諸国と対立するロシアとの接近は、欧米諸国や日本など各国の不信感や外資系企業の投資意欲の低下を招く恐れがある。

上記はJETRO（日本貿易振興機構）の記事です。

こうした流れをみなさんはどうお考えでしょう？あれだけ侵略戦争に反対して戦ったベトナムが、なぜウクライナに無慈悲な侵略を続けるロシアのプーチン大統領を招待するのかという驚きがあるのではないのでしょうか。ロシアは中国や北朝鮮、ミャンマーとも接近しています。

アメリカや日本の政府は「**価値観を共有する国との協力**」を常套句としており、日本の外務省の説明では「普遍的価値（自由、民主主義、基本的人権、法の支配、市場経済）に基づく外交」ということだそうで、こうした価値観を持つ国家と連携するということです。

元々は米国で新保守主義の立場から提唱されたもので、その影響を受けてきた安倍晋三氏や麻生太郎氏らが共鳴して主張したものだと言われます。

対立概念として独裁、専制、権威主義などと様々言い代えながら**世界を分断**して捉えています。イスラエルやミャンマーと価値観を共有しているのでしょうか。

第二次大戦が終わり戦後、国連が結成されたのは国際連盟のもとで世界がブロック化し対立を激化させたことへの反省があったはず。日本はそのために「**諸国民との協和**」を憲法で掲げました。もう一度この原点に立つて日本はどうすべきか考えるときではないでしょうか。

沖縄で相次ぐ 米兵婦女暴行事件隠蔽

◆5月26日、アメリカ海兵隊に所属する21歳の上等兵が沖縄県内で**成人女性に性的暴行**をしようとしてけがをさせた疑いで逮捕され、6月17日、那覇地方検察庁が起訴していたことがわかった。

女性は抵抗し、上等兵はその場から立ち去ったが通報を受けた警察がを見つけ、米軍基地の外で逮捕した。

沖縄県によれば、28日に明らかになったアメリカ海兵隊の上等兵による性的暴行事件について、約4時間後の午前10時ごろ、事件の概要が伝えられるまで県には連絡がなかった。

◆沖縄県ではアメリカ空軍の兵士が、去年12月、面識のない**16歳未満の少女**をわいせつ目的で自宅に連れ込み性的暴行をした罪で起訴されていたことが、今月25日に明らかになった。沖縄県への**連絡が起訴から3か月近く**たった6月25日になったことについて、県が27日にアメリカ軍に抗議したほか、外務省などに通報体制の見直しを求めるとしている。

事件が何か月も知らされなかったことについて、全国のおよそ7割の米軍基地が集中する沖縄県では、アメリカ軍関係者による事件が繰り返り起きていて、性暴力事件が相次いで発覚する事態に、県民の中に抗議や反発の声がさらに強まるとみられる。

同様な事件の頻発に1995年には県民の怒りが米兵暴行事件糾弾県民総決起大会となり、8万5000人の大集会となり、その後のオール沖縄の大きな動きが高まった。



3か月も事件をひた隠しにしてきたことについて沖縄県の玉城知事は「本当に怒り心頭だ」と述べていますが、これは報告の遅れとか、連絡体制の見直しなどという類のことではなく、6月に行われた県議選を前に1995年の事態の再来を恐れての配慮を疑わざるをえない。

